＃約20年前の商店街

特集

宇和島に、帰る

毎年1月2日に行われる「宇和島市成人式」。

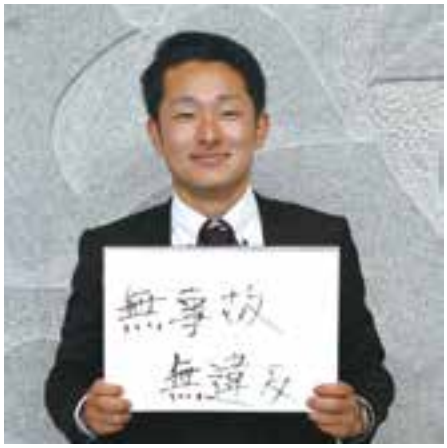
高校を卒業して就職や進学で市外に出た若者が宇和島に集まりました。会場の南予文化会館前には、晴れやかな姿の若者で溢れ「おかえり」「久しぶり」という声が飛び交いました。その表情は友人と久しぶりに再開し、にこやかになっているだけではなく、どこか安心していて落ち着いた雰囲気すら感じさせます。

現在本市では、地域に残ったり帰ってきたりする若者を増やすために、市の魅力向上につながる事業を積極的に進めています。

今月の特集では成人式にあわせて、本市で取り組む「おかえりプロジェクト」と、それぞれの経験から感じた宇和島の魅力を紹介します。

平成31年 成人式

2019.01.02 南予文化会館



平成10年度生まれの659人が出席しました。今年は、平成30年７月豪雨の犠牲者を悼み黙とうが捧げられ、復興を願う寄せ書きコーナーが設けられました。二宮有里佳さんは「西日本豪雨を通し、つらく苦しいときこそ笑顔で支え合う大切さを学びました。支えてくださった方々に感謝し、社会の一員として責任ある行動を心がけていきます」と謝辞を述べました。

「おかえりプロジェクト」推進中！

郷土に誇りと愛着を持ち、家族や地域との絆を深めるため、若者が未来を切り拓くまちづくりを目指して、次の４つのプロジェクトを展開しています。

未来つながる宇和島プロジェクト

活躍できる場所 1

「高校生まちづくり課」誕生

「若者が地域に残れる、帰れるまちづくり」をテーマに、高校生が提案したアイデアをまちづくりに生かす「高校生まちづくり課」が誕生しました。

今年度開催したワークショップでは、生徒らが大人たちと対話しながら、宇和島の魅力などについてアイデアを出し合い「うわじま圏域ビジョンマップ」にまとめました。

ワークショップの様子

◀宇和島にある魅力的なスポット、こんなものがあったらいいのにという高校生たちの柔軟な意見を出し合い、マップ化しました。

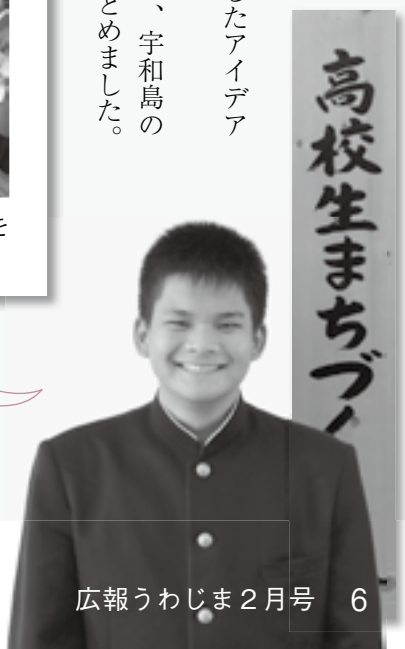
地域資源活用

九島振興

商店街振興

ワークショップで出たアイデアを選び、市長へ政策提言しました。

ほかの高校生と話をすることで、普段生活している範囲以外の、今まで知らなかった宇和島の魅力を発見できました。



つながり・継続 2

「未来つながる宇和島」配信開始

高校を卒業し市外へ出て行く若者に対し、市内の最新情報・就職情報・コラム・動画など、ＳＮＳを活用し定期的に配信します。

また、その保護者や地元の友人たち（サポーター）に対しても、同じ情報を発信し、家族間や友人間のつながりも強化することで、２方向からのアプローチを図ります。

【配信イメージ】

宇和島市

市内の最新情報・就職情報・コラム・動画の配信

情報発信

情報発信

地元サポーター

家族間、友人間でのつながりを強化

情報をシェア（共有）して、つながりを強化

地元から離れて暮らす若者

宇和島への想いを育む

未来つながる公式SNS

【動画配信】【LINE@】

【Facebook】【Instagram】

※紙媒体でも配信しています。

思い出・地域との関わり 3

地元ケーブルテレビを活用した学校自慢ＣＭ制作中

学校自慢ＣＭの大賞作品などを公開審査会で決定し、ケーブルテレビでも放映します。児童に対して、思い出づくりのきっかけを作り、学校や地域の取り組みを発信して学校と地域との情報共有を図ります。

■「学校自慢ＣＭ大賞」公開審査会

【と　き】３月３日㈰ 午後１時30分～４時30分

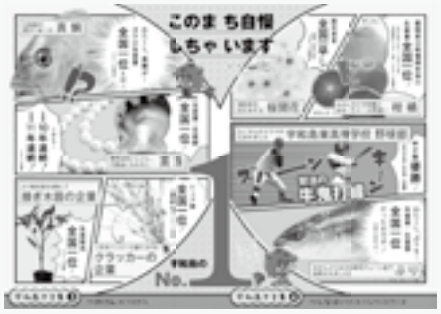
【ところ】南予文化会館

【内　容】市内約20校の小中学校が参加し、学校の自慢を披露します。

郷土の誇り 4

ポケットブック「ガイナ」配付

宇和島が全国に誇れるものや魅力をポケットブックにして、市内の高校３年生に配付します。進学・就職先などでのネタ本として活用してもらいます。



【問合先】企画情報課地方創生係☎24－1111内線2510

＃鯛めし

＃堂崎海岸

＃赤灯台

だから、帰る

ずっと住んでいるからこそ知っている宇和島の良さ。
帰ってきたからこそ分かる宇和島の良さ。
外に出たからこそ気付いた宇和島の良さ。

それぞれの経験から感じる宇和島の「魅力」。

ずっと住む

どの魚もおいしいけれど、
やっぱり鯛が一番！

住むにはちょうどいい

㈱宇和島プロジェクトに勤務する松本さんは、高校卒業後就職し、ずっと宇和島で生活をしています。高校進学までは、美容系の仕事に就くことも考えていたそうですが、姉からの勧めもありフィッシュガールになりたいと志願しました。

高校在学時に、フィッシュガールとしてマグロの解体ショーを県外で行うなかで、愛媛県や宇和島市の存在を知らない人と数多く出会い、「少しでも宇和島の認知度を上げたい」と感じるようになり現在の仕事に就きました。

松本さんは、田舎の落ち着いた時間の流れが過ごしやすくて気に入っているとのこと。「宇和島の人は年代を問わず親しくしてくれるので安心して過ごすことができる。買い物や遊びは宇和島でなくてもできるけど、住むには宇和島がちょうどいい」と話します。

現在は、加工・事務・営業をこなす傍ら、数ヵ月に1回程度マグロの解体ショーを続けています。そこには、少しでも宇和島のことを知って欲しいという気持ちが込められています。

「宇和島は何より住みやすい。安心で落ち着く。そしてどこよりも、魚が美味しい」と話してくれました。

帰って感じた

石応の堂崎海岸がお気に入り。
考えごとをするときは、原付で通います。
夕日が綺麗に沈む姿が絶景。

「宇和島」という強み

市内にある画材屋「べにばら画廊」の吉田さんは、高校卒業後県外の芸術大学に進学し、そのまま県外で就職しました。高校時代は都会に出たい一心で、宇和島に帰ることは少しも考えていなかったそうです。しかし、家業を継ぐことなどをきっかけに帰郷しました。

吉田さんは高校生のころ、宇和島にもっと遊ぶところがあればいいと考えていました。しかし都会で生活をしてみて、仮にそれが宇和島にあったとしても、本当の「宇和島らしさ」はもっと違うところにあるはずだと感じたそうです。帰郷して気付く人の温かさ。昔は煩わしいと感じていたけれど、自分に共感し興味を持って助けてくれる人がたくさんいることに気付かされたそうです。

現在の取り組みの1つに、蒋淵の空き家を利用して、住み込みで一定期間芸術活動に励む人の募集を考えています。こういった活動の結果、最終的には芸術面でも注目されるまちになって欲しいと話します。

「最初は、宇和島で生活していけるか不安だった。でも、仕事は外でもできる。宇和島の中だけで勝負しなければならない訳ではない。「地方」という価値を生かせる環境に私たちはいる。これが私たちの強み」と話してくれました。

いつかは宇和島に

愛媛大学の社会共創学部に進学した中村さん。社会共創学部は、地域の人たちと協働して課題に取り組む人材を育成し、地域の活性化につなげていくことを目的とした学部です。中村さんは「海洋生産科学コース」を専攻し、水産物の養殖や病気について研究しています。

なんとなく海が好きだった中村さんは、大学に出て新しい価値観を持つ人と関わる中で、海が近くにあることの魅力を再認識したそうです。大学の友達から出てくる宇和島の印象といえば、やはり水産物やミカンが中心です。宇和島にいるころは日常的に身近にあったものが、市外に出たことでそれが非日常的であり、誇れるものが多いことに気が付きました。

中村さんは特に、小さいころから慣れ親しんだ海に強い魅力を感じています。「食べたら美味しいとかだけではなく、海の環境に関することとか、宇和島に住んでいれば、そういったことを知る楽しさが味わえる」と話します。

中村さんは、今後しばらくは新たな価値観を身に付けるためにも市外で勉強を続けたいそうです。そして、いつかは身に付けた経験や知識で宇和島に貢献したいとも話してくれました。

離れて気付く

思い出の戎山にある赤灯台。
正式な名前は知らないけれど、先輩に釣りに
連れて来てもらった思い出の場所。